

稲作情報

Vol.1 平成28年6月2日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部
 問い合わせ先：本吉農業改良普及センター
 TEL：0226-29-6044
 HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



田植盛期は平年より3日早い5月15日、生育経過は順調

気象経過 4~5月は全般的に高温多照傾向で推移

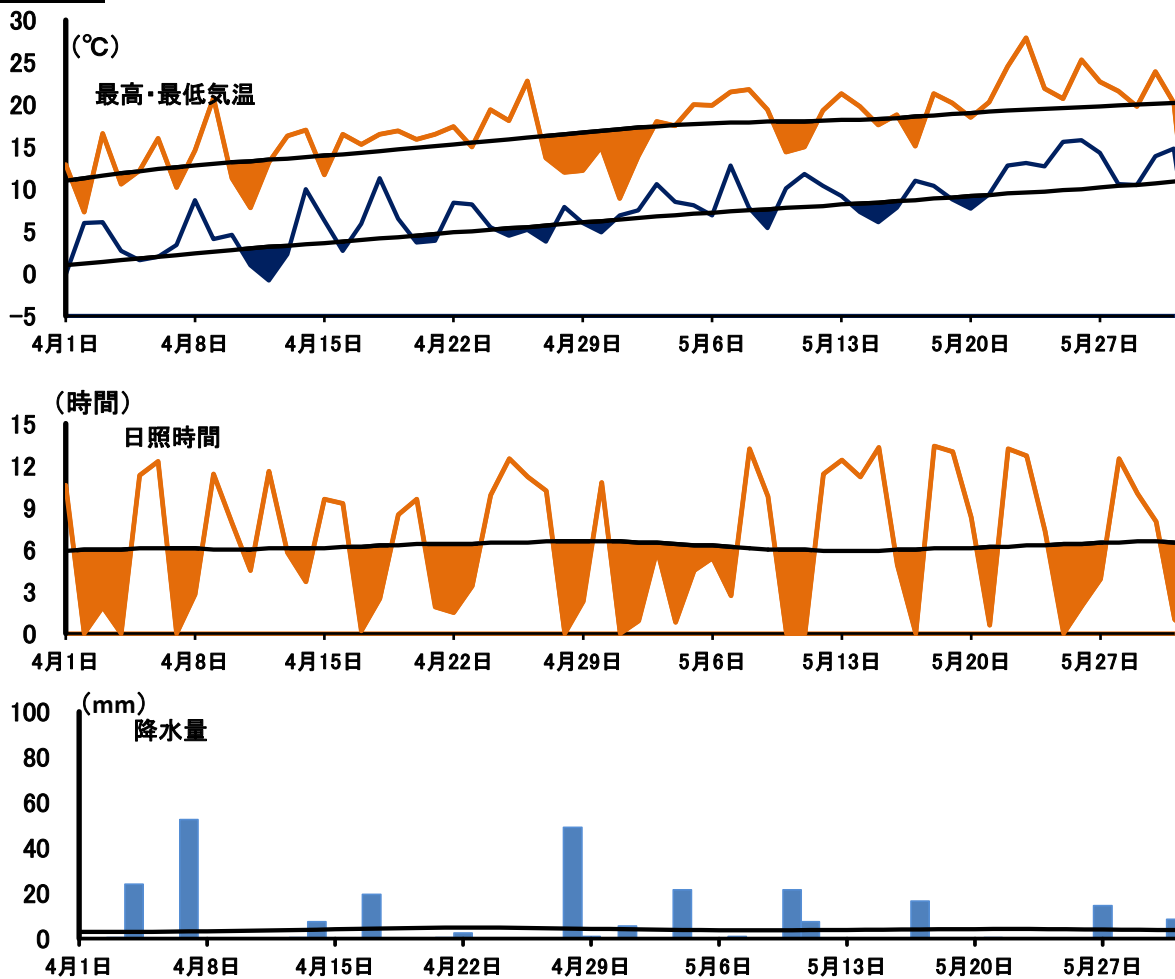


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：4月1日～6月1日）

5月は全般的に気温が平年より高く、田植え直後の中旬を中心に多照傾向であったことから、水稻の生育は順調に進んでいます。

一方、降水量は、4月上旬と下旬にまとまった降雨がありましたが、それ以外は周期的に降雨がありました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

| | 平均気温(°C) | | | 最高気温(°C) | | | 最低気温(°C) | | | 日照時間(hr) | | | 降水量(mm) | | |
|-------|----------|------|-----|----------|------|------|----------|------|-----|----------|------|------|---------|------|------|
| | H28 | 平年 | 差 | H28 | 平年 | 差 | H28 | 平年 | 差 | H28 | 平年 | 比 | H28 | 平年 | 比 |
| 5月1半旬 | 12.2 | 11.9 | 0.3 | 15.7 | 17.4 | -1.7 | 8.3 | 6.8 | 1.5 | 12.2 | 32.3 | 38% | 27.0 | 19.6 | 138% |
| 5月2半旬 | 14.1 | 12.5 | 1.6 | 19.4 | 17.9 | 1.5 | 8.6 | 7.5 | 1.1 | 31.1 | 30.6 | 102% | 22.5 | 18.5 | 122% |
| 5月3半旬 | 13.7 | 12.9 | 0.8 | 18.6 | 18.2 | 0.4 | 9.0 | 8.2 | 0.8 | 48.3 | 29.6 | 163% | 7.5 | 19.2 | 39% |
| 5月4半旬 | 13.9 | 13.5 | 0.4 | 18.8 | 18.7 | 0.1 | 9.1 | 8.9 | 0.2 | 39.6 | 30.3 | 131% | 16.5 | 20.3 | 81% |
| 5月5半旬 | 17.5 | 14.2 | 3.3 | 23.1 | 19.4 | 3.7 | 12.7 | 9.6 | 3.1 | 33.8 | 31.4 | 108% | 0.5 | 20.8 | 2% |
| 5月6半旬 | 17.3 | 14.9 | 2.4 | 22.3 | 20.0 | 2.3 | 13.3 | 10.5 | 2.8 | 37.4 | 39.1 | 96% | 23.0 | 23.4 | 98% |

播種・田植の状況 平年に比べ播種盛期は1日早く、田植盛期は3日早い

管内の播種盛期は4月14日で平年より1日早くなりました。苗の生育は順調で、苗立枯病の発生も例年より少ない傾向でした。また、田植盛期は5月15日と平年より3日早くなりました。

表2 播種および田植状況

| | 播種状況 | | | 田植状況 | | |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 播種始期 | 播種盛期 | 播種終期 | 田植始期 | 田植盛期 | 田植終期 |
| 平成28年 | 4月5日 | 4月14日 | 4月22日 | 5月9日 | 5月15日 | 5月24日 |
| 前年 | 4月6日 | 4月15日 | 4月21日 | 5月9日 | 5月16日 | 5月24日 |
| 平年 | 4月8日 | 4月15日 | 4月22日 | 5月11日 | 5月18日 | 5月26日 |
| 前年差(日) | -1 | -1 | 1 | 0 | -1 | 0 |
| 平年差(日) | -3 | -1 | 0 | -2 | -3 | -2 |

※始期、盛期、終期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%で作業が終了した日
平年は前5カ年の平均値

田植後の生育経過 生育は順調、平年より5~7日ほど進んでいる

1) 生育調査ほ

6月1日現在の水稻生育調査ほの生育は、両ほ場とも葉数は平年より約1枚進んでおり、生育は平年より5~7日ほど進んでいます。気仙沼市ひとめぼれでは、植え付け本数・栽植密度とも平年より少なく、茎数も平年より少なくなっています。南三陸町ササニシキでは、草丈・茎数ともに平年を上回っています。

管内全体も、田植え後の好天により生育は順調で、平年より進んでいます。

表3 生育調査結果

| 調査地点名 品種名 | | 苗調査 | | 田植調査 | | | 6月1日調査 | | |
|--------------|--------|------------|-----------|-------|---------------|-----------------------------|------------|---------------------------|-----------|
| | | 草丈 (cm) | 葉数 (枚) | 田植月日 | 植付本数 (本/株) | 栽植密度 (株/m ²) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) |
| 気仙沼市 | 平成28年 | 15.5 | 3.0 | 5月15日 | 4.0 | 18.1 | 21.4 | 81.5 | 5.8 |
| | 前年 | 13.4 | 3.6 | 5月14日 | 3.7 | 18.5 | 21.7 | 115 | 5.8 |
| | 平年 | 13.2 | 3.0 | 5月13日 | 5.0 | 20.5 | 19.5 | 121 | 4.7 |
| ひとめぼれ | 前年差(比) | 2.1 | -0.6 | 1日 | 0.3 | -0.4 | -0.3 | 71% | 0 |
| | 平年差(比) | 2.3 | 0 | 2日 | -1.0 | -2.4 | 1.9 | 67% | 1.1 |
| 南三陸町 | 平成28年 | - | 2.5 | 5月13日 | 5.8 | 19.0 | 25.6 | 122 | 5.4 |
| | 前年 | - | 3.4 | 5月14日 | 5.9 | 19.6 | 25 | 135 | 5.5 |
| | 平年 | - | 3.4 | 5月16日 | 5.2 | 18.5 | 20.1 | 103 | 4.6 |
| ササニシキ | 前年差(比) | - | -0.9 | -1日 | -0.1 | -0.6 | 0.6 | 90% | -0.1 |
| | 平年差(比) | - | -0.9 | -3日 | 0.6 | 0.5 | 5.5 | 118% | 0.8 |

注: 平年値は過去5カ年(平23~27年)の平均値

2) 土壌改良プログラム

「土壌改良プログラム」とは?

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラムです。

表4 復旧農地の生育調査結果

| 調査地点名 (田植日) | 区名 | | 6月1日調査 | | ※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」42kg/10a。 ※品種はすべて「ひとめぼれ」。 ※苗はJA南三陸歌津育苗センターから手配。 ※参考区は、過去2年間たい肥0.6t散布し、今年はいたい肥3t散布した。 ※昨年の田植えは5月23日。 |
|-------------------|----------------|--------|------------|---------------------------|--|
| | | | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | |
| 土壌改良プログラム実証ほ | 実証区 (たい肥3t) | 平成28年 | 25.7 | 173 | |
| | | 前年 | 17.6 | 120 | |
| | | 前年比(差) | 8.1 | 144% | |
| 南三陸町歌津 (5月13日) | 参考区 (たい肥3t) | 平成28年 | 28.5 | 129 | |
| | | 前年 | 19.4 | 134 | |
| | | 前年比(差) | 9.1 | 96% | |

土壌改良プログラムの実証ほは、今年で農地復旧後 3 年目です。
今年も、活着・その後の生育ともに良好です。
茎数は、実証区が参考区よりも 3 割以上多くなっています。

今後の技術対策

◎水管理

- 水深は浅水(2～3cm)として水温の上昇に努め、分けつを促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は、5～6cmの深水にしましょう。
- 水かけは早朝に行い、日中は止水してください。日中に水かけを行うと、水田全体の水温が高まりにくく、水口と水尻の水温差が大きくなり、生育ムラが生じやすくなります。

◎病害虫防除

《本田初期害虫》

- 病害虫防除所の発生予察情報(5月20日発行)によると、イネミズゾウムシとイネドロオウムシの発生量は、平年並の見込みです。
- 箱施用剤を使用した場合は、本田での防除は必要ありませんが、箱施用剤を使用しなかった場合は、以下の要防除密度を目安に防除してください。
 - ・イネミズゾウムシ：畦畔から約2mで成虫が130頭以上/100株見られるとき。
 - ・イネドロオウムシ：侵入盛期(6月第1半旬)に成虫が25頭以上/100株、または産卵盛期(6月第2半旬)に卵塊が80個以上/100株見られるとき。

《葉いもち》

- 早期の葉いもち発生は、感染苗の本田持ち込みによるものが多く、そこから菌が空気中に飛散して伝染します。ほ場に放置している残苗は、本田でのいもち病の発生源となりますので、補植が終わったらただちに土に埋めるなどして処分してください。残苗を処分する際は、苗にいもち病が発病していないかを確認し、発病があった場合は本田での発生に注意してください。
- 箱施用剤によるいもち病防除を行っていない場合は、オリゼメート粒剤またはオリゼメートパック等の水面施用剤を6月中・下旬に湛水状態で散布してください。

◎雑草防除

- 初期剤や初中期一発剤を散布しても雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。
- 中・後期剤を散布する場合は、必ず雑草の種類や草丈・葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。

～難防除雑草コウキヤガラについて～

本吉管内では、耐塩性が高く塊茎による繁殖能力が高い難防除雑草コウキヤガラが震災前から多発していましたが、震災の津波被害を受けた地域では、復旧までの休耕期間にコウキヤガラが増殖し、復旧後の水稲作に影響を及ぼしています。

コウキヤガラ対策について、古川農業試験場からの成果情報を一部紹介します。

<本田での発生>

○有効成分にピラクロニルやピリミスルファン、メタゾスルフロンを含む水稲用除草剤はコウキヤガラに高い効果を示します。

中後期剤での例：アトトリ 1 和粒剤 など

<休耕田での発生>

○コウキヤガラが繁茂した休耕田では、6月下旬までにグリホサートカリウム塩を有効成分とする休耕田用除草剤を茎葉散布することで、当年の塊茎は生産されるものの、翌年の萌芽は抑制されます。

○コウキヤガラが繁茂した被災休耕田において、作土を移動したりプラウにより反転耕することで、作土表層の塊茎数が減少します。



コウキヤガラ発生水田(6月)



コウキヤガラの
地下茎

補植用残苗は早めに処分しましょう！